編集代表

黒田末寿・寺嶋 秀明

ANIMAL
ETHNOGRAPHY

新・動物記

【既刊 8 巻】

2021 年 6 月から　刊行開始

シリーズの特長

- ●専門書には載らないエピソードたっぷり
- ●気鋭の著者が最新の研究を現場から紹介
- ●中学生・高校生から読める親しみやすい語り口
- ●豊富な写真・動画がフィールドの臨場感をお届け

動物研究の最前線から届く ドキュメンタリー・シリーズ

配本間隔：隔月　全巻数を定めない継続シリーズ
判型・姿：四六判並製　240~280 頁
価格目安：各巻 本体 2200 円程度（税別）
読者対象：中学生以上～研究者

京都大学学術出版会

推薦します

●動物を知る幸せをすべての読者へ

動物好きなら、「動物の研究者になりたい」と思ったことが一度くらいあるだろう。しかし、「役に立つ」研究ばかりがもてはやされる今の世の中で、動物研究者として生きてゆくのは決して楽ではない。本シリーズは、そんな状況の中で、様々な動物の研究に果敢に取り組んでいる若手研究者たちが、それぞれの研究について、楽しさや苦労、研究者になるまでの歩みを含めて、生き生きと紹介したものである。読者は、ちょっと変わった、いや、かなり変わった、ある意味とても幸せな研究者たちから、動物を研究する喜びや、知る喜び、ワクワク感など、様々な幸せを分けてもらえることだろう。すべての動物好き、特に動物研究者を目指す若い人たちに強くお勧めする。

幸島司郎
（元京都大学野生動物研究センター長）

●生きた観察が教える深い智慧

地球の陸上動物の 9 割以上を人間と家畜が占める現代、野生の動物たちの姿が次第に希薄になりつつある。その世界に身を挺して乗り込んで、ナメクジからキリンまで多様ないのちの真の姿とつながりを明らかにしようとした若者たちがいる。書斎で図鑑を眺めるのではなく、動物たちが自然に生きる場所で彼らを眺め続けてわかったこと。それは「新・動物記」にふさわしい新しい視点と、地球の生命系に埋もれている深い智慧を教えてくれる。

山極寿一
京都大学名誉教授・総合地球環境学研究所所長）

Kyoto University Press

新・動物記

シリーズ編集

黒田末壽（滋賀県立大学名誉教授）

西江仁徳（日本学術振興会特別研究員 RPD・京都大学）

「あの動物のことを知りたい！」研究者たちはこの一心で動物の生きる現場に向かい、その生態や社会の謎を解く決定的瞬間をとらえようとします。目指す動物に出会うまでの忍耐、ありのままの行動を観察するための工夫、断片的な証拠を繋ぎ合わせる推理――。

「新・動物記」シリーズは、動物に魅せられた若者たちがその姿を追い求め、彼らの世界に少しでも近づこうとする過程を描いたドキュメンタリーです。動物や自然を愛好するすべての読者にお届けします。

1. キリンの保育園

――タンザニアでみつめた彼らの仔育て

齋藤 美保 著　ISBN 978-4-8140-0333-4　2021/6

小さな仔をもつキリンのお母さんたちは、集まって「保育園」をつくり、共に仔育てをする。見守り役の分担、ママ友関係、授乳をめぐる攻防……ミオンボ林の片隅のある保育園でみつめた、キリンの親仔たちの物語。

2200 円（税込 2,420 円）

2. 武器を持たないチョウの戦い方

――ライバルの見えない世界で

竹内 剛 著　ISBN 978-4-8140-0337-2　2021/6

チョウが互いに相手の周りを飛び回る卍巴飛翔は、縄張り争いの一種と説明される。しかし鋭い牙も爪も持たないチョウがただ飛び回ることが、なぜ「闘争」になるのだろうか。試行錯誤の末たどり着いた衝撃の結論。

2200 円（税込 2,420 円）

3. 隣のボノボ

――集団どうしが出会うとき

坂巻 哲也 著　ISBN 978-4-8140-0336-5　2021/8

集団どうしの出会いを避けるチンパンジーと、異なる集団が交わり一緒のときを楽しむボノボ。最もヒトに近い動物であるこの 2 種は、なぜこれほどに対照的な社会を進化させたのか。コンゴの森で綴られた瑞々しい動物記。

2200 円（税込 2,420 円）

4. 夜のイチジクの木の上で

――フルーツ好きの食肉類シベット

中林 雅 著　ISBN 978-4-8140-0356-3　2021/10

暗闇の中に光る目。食肉目なのに果物好き。地面を闊歩するが樹上 60 メートルで糞もする。不思議な動物シベットに魅せられた著者による 8 年間に及ぶ追跡の実録。シベットが成し遂げた「中途半端」な適応の強みとは。

2200 円（税込 2,420 円）

5. カニの歌を聴け

――ハクセンシオマネキの恋の駆け引き

竹下 文雄 著　ISBN 978-4-8140-0395-2　2022/4

暗い穴の奥でかすかに響く低い音。ハクセンシオマネキのオスがメスを巣穴に誘う求愛音だ。しかし、その効果のほども、音の出し方すらもわからない。不思議な歌に導かれてカニたちの干潟に辿り着いた研究者が見た、炎天下の恋模様。

2000 円（税込 2,200 円）

6. アザラシ語入門

――水中のふしぎな音に耳を澄ませて

水口 大輔 著　ISBN 978-4-8140-0439-3　2022/10

氷の下で鳴くアザラシが、その音をどんな時にどんな意味で使っているのかは、いまだ海のように深い謎に包まれている。水族館に通い詰め、流氷の海に繰り出し、幾多の困難を乗り越えて「アザラシ語」の解明に挑んだ著者の奮闘記。

2000 円（税込 2,200 円）

7. 白黒つけないベニガオザル

――やられたらやり返すサルの「平和」の秘訣

豊田 有 著　ISBN 978-4-8140-0451-5　2023/1

やられたらやり返す社会の中で、なぜバラバラにならずにいられるのか？ 和解のための様々な手段、仲間に見せる気遣い、特殊な性行動など、400 頭のサルを見分け追い続けてきた著者がみた彼らの「平和」の秘訣。

2200 円（税込 2,420 円）

8. 土の塔に木が生えて

――シロアリ塚からはじまる小さな森の話

山科 千里 著　ISBN 978-4-8140-0462-1　2023/4

地面からにょきにょきと突き出した、土の塔のようなシロアリ塚。土の塔は長い年月をかけて形を変え、豊かな植生を育み、多くの野生動物たちをも支える。アフリカのサバンナにそびえるシロアリ塚がつなぐ、森と動物と人びとの物語。

2200 円（税込 2,420 円）